



第2回

蔡國強

Cai Guo-Qiang

取材・文 金島隆弘 (FECディレクター)

1957年中国福建省生まれ。上海演劇大学美術学部卒業後、86年来日、89年から91年まで筑波大学研究生として学び、95年以降はニューヨークを拠点に活動。



③ Inopportune: Stage One, 2004  
Nine cars and sequenced multichannel light tubes  
Dimensions variable  
Seattle Art Museum, Gift of Robert M. Arnold, in honor of the 75th Anniversary of the Seattle Art Museum, 2008  
Exhibition copy installed at Solomon R. Guggenheim Museum, New York, 2008  
© Solomon R. Guggenheim Foundation New York. Photo by David Heald.

① Cai Guo-Qiang "Head On", 2006 - 39 life-sized replicas of wolves and glass wall. Wolves: papier mâché, plaster, fiberglass, resin, and painted hd  
Dimensions variable Deutsche Bank Collection, Commissioned by Deutsche Bank AG Installed at Solomon R. Guggenheim Museum, New York, 2008  
© Solomon R. Guggenheim Foundation New York. Photo by David Heald.

② Installation view of Cai Guo-Qiang: I Want to Believe at Solomon R. Guggenheim Museum, New York, 2008  
© Solomon R. Guggenheim Foundation New York. Photo by David Heald.

中

国の念願であったオリンピックに向けて、大変革を遂げた北京に約二年滞在し、オリンピックの開幕式の芸術監督としてその準備に携わった蔡國強（ツァイ・グオチャン）。オリンピックの開幕式（8月8日）と、中国美術館での個展（8月19日より開幕）の直前の忙しい中、その心境と、現代美術に対する姿勢を語っていただいた。



静かなる大回顧展

—— 先ず、現在巡回中の展覧会について教えてください。

蔡 この展覧会は、ニューヨークのグッゲンハイム美術館で今年の春に開催された展覧会「I want to believe」が、北京の中国美術館に巡回するものです。今まで展覧会の機会があると、キュレーターのエネルギーに押されていたが、ニューヨークでの展覧会は、新作を一切含めず、全て旧作で構成し、それぞれの作品のコンセプトやその背景が伝わるような、より学術的な回顧展としてまとめました。

—— ニューヨークでの展覧会はグッゲンハイム史上最高入場者数を記録したそうですが、中国美術館での展覧会も同じ内容ですか？

蔡 基本的にはニューヨークでの展覧会を巡回させるので、旧作を丁寧に展示することが展覧会の中心になります。北京ではそれにプラスして、北京オリンピックのためのドローイングや、自分のこれまでの履歴を辿れるような展示をします。

父が万年筆でマッチ箱に描いた故郷の風景画は、非常に小さな世界のように見えますが、壮大な夢や大きな世界に繋がっているもので、現在の活動にも大きな影響を与えています。そういった父の作品から、毛沢東時代、文化大革命、日本にいた時代、ニューヨークにいた時代と、その時々を真直に展示し、それらの流れを辿るようにします。

—— ということは、ニューヨークでの展示とは大分趣が異なりますね。

蔡 グッゲンハイム美術館と中国美術館では空間が大きく異なり、そのまま同じようには展覧会を巡回できません。また、展示空間に合わせて自分のアイデアも毎回変えます。具体的に今回の展示では、グッゲンハイムの空間を活かした車のインスタレーション。

した。そして、今回オリンピックの芸術監督という大役を引き受けることになりましたが、このことをどうお考えですか？

蔡 実はオリンピックの担当を引き受けたくなかった、というのが本音でした。現代美術は犯罪さえしなければ、素材もコンセプトも自由に、好きなことが何でも出来ます。しかし、アーティストがこういった国家的大行事を引き受けることは非常に危険で、やりにくいことです。具体的には、出てきた作品が本当の芸術として成立するかということ、そして共産主義の政府に自分が組み込まれてしまっているのか、という二つの危険性を思い浮かべました。

—— では実際に担当されていかがでしたか？ やはり今までの立ち位置。から一転し、政府に歩み寄る必要性はありましたか？

蔡 実際のところ、そうではありませんでした。オリンピックのメイン会場である、鳥の巣の建物からも感じられると思いますが、中国政府も大きく変わり、現代の文化を積極的に理解しそれを取り込もうとしています。中国は積極的に開放を目指しているし、オリンピックは北京の環境、法律を改善し、マスコミなどのメ

レーシヨンの作品を中国美術館の幅広い空間にあわせ、車の配置もぐっと締め、使う色も白一色にし、部屋全体を巨大なビッグバンのようにします。

—— タイトルに込められた意図は？

蔡 見えない世界との対話、人間社会への疑問、といったこと、そして今までの仕事を通じて疑問に思ってきたことや、今までの作家活動をまとめるのにふさわしい言葉を考えて結果、この言葉を選びました。

—— 中国語と英語のどちらが先に浮かんだのですか？

蔡 英語です。Xファイルのボスターがニューヨークの自分のスタジオにいつも張ってあって、「UFOは本当に存在するか」、「人間はそれを信じているのか」、などのフレーズが多くあり、そこからこの言葉を展覧会のタイトルとして選びました。そして、今回の北京での展覧会に際し、そのタイトルを「我想要相信」に置き換えました。

中国の大変化と共に

—— 中国政府とは、今まで絶妙な距離感の中で仕事を進められてきま

ディアもだいぶ開放され、プラスに作用していると思います。

自分自身も他人のように外から悪口を言う立場ではなく、むしろこの変化に積極的に参加して、その中の一人としてこの変化を経験し、自分自身も変わりました。国の変化に対して自分も何らかの貢献が出来ればと思っています。

—— 自分の思い描く開幕式になりそうですか？ また、その内容については？

蔡 実際に当日を迎えないと分かりませんが、現時点ではかなりのところまで出来ると考えています。開幕式では、スケールの大きな作品を予定していて、一つはオリンピック会場と北京の街を繋ぐ、長さ約14キロメートルの作品、そしてもう一つは会場と万里の長城を繋ぐものです。皆が開幕式に参加できるように、会場の中で全てを完結させず、より外に開いていく演出です。オリンピックならではのスケール感を活かした作品となるでしょう。このような大きなパフォーマンスを行うため、中国美術館での展覧会の開幕式では特別なことをせず、皆に静かにゆっくり作品を見てもらえるようにしたいと考えています。